

令和5年度第1回 国土交通省東京航空局 総合評価委員会
審議概要

開催日及び場所	令和5年7月5日（水）霞ヶ関合同庁舎2号館低層棟共用会議室5
委員	委員長 廣渡 鉄 （弁護士） 委員 高田 和幸 （東京電機大学 教授） 委員 鎌田 裕美 （一橋大学大学院 准教授）
内容	・ 2号議案審議
各委員からの意見・質問	別紙【議事要旨】のとおり
委員会による具申内容	委員から意見等のあった事項については、今後業務内容を工夫しながら進めること。

【議事要旨】各委員からの意見・質問

議事3. 2号議案審議

(1) 実施状況の評価【市場化テスト終了プロセス案件】

○東京国際空港場周警備設備等保守業務

(質問) 応札者が1社ということだが専門性はどの程度高く要求されるものなのか。候補となる業者が少ないのか、それとも本来はある程度たくさん入札されてもいいものなのか見解を教えてほしい。

(回答) 業務を実施する上での資格要件は特に設けていないので、特殊技能が必要というわけではない。応札者は1者が続いているものの、過去には入札説明資料を取りに来た業者は複数おり、そういった業者へ(応札へ至らなかった理由を)ヒアリングをしたところ、年間を通じて人員確保(平日は7, 8名体制、休日は3, 4名体制)することが人手不足で難しいという答えをもらっている。

(質問) 市場化テスト終了後、コスト削減効果はどの程度か。

(回答) 市場化テスト実施前のH26年度契約と比較すると、契約金額は5.7%増だが、労務単価はそれ以上の幅で上昇しているため、それ以外の諸経費については削減ができていると理解している。

○東京国際空港海上制限区域警備業務

(質問) 市場化テストによって応札者が増えてきたが、応札者や落札者の業者の顔ぶれは同じなのか、それとも入れ替わりがあるのか。

(回答) H27年度からの3ヵ年契約までは1社応札の時代からずっと同じ業者が落札していた。H30年度からの契約とR3年度からの現契約は別の会社が受注している。よってこれまで受注した実績のある業者は2社ということになる。

(質問) H30年度からの契約は総合評価落札方式で実施していたが、R3年度からの契約は最低価格落札方式に変えたのはなぜか。

(回答) 新たな有益な提案が見込まれなかったことや、実務上の事務の効率化などといった観点から、最低価格落札方式に変更した。

○航空灯火施設維持工事【三沢、新潟、百里】

(質問) 1社応札が続いているため、説明会と見学会を引き続き開催するとのことだが、この説明会・見学会はこれまでも開催されているという理解でよろしいか。また何社くらい参加者がいたか。

(回答) 新潟空港で前回実施した際は7社ぐらい参加して頂いている。

(意見) せっかく7社も来てくれたのに技術者の確保が難しいという理由で結果的に1社応札となってしまっているのは残念なようにも思えるので、人員配置をどこかのタイミングで見直してもよいのかもしれない。

○土木維持修繕工事〔丘珠、東京（構内道路）〕

（意見）内容が多岐にわたっており、本来は違う事業者がやるようなことも抱きかかえの一括でつくっている事業だと思われる。事務コストが増えてしまうかもしれないが、上手く案件をばらすことができれば入札者を増やすことにもつながるのではないか。入札者増やコスト削減、効率的な事業の推進を目的としてうまく整理できればいいと思う。

以 上